

# 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	イネシンガレセンチュウ	育苗時	—	—	種子消毒時	・前年度の発病したほ場から採種しない。・温湯消毒は有効。拮抗微生物農薬による種子消毒では、化学合成農薬(スミチオン乳剤等)を組み合わせる。	大阪府
水稻	スクミリンゴガイ	稚苗移植前～移植3週間後	殻高15～20mm以上の貝の生息密度を調査する	2.5個体/平方メートル	即時	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
水稻	スクミリンゴガイ	田植え直後～田植え後2から3週間	見取り調査	1.5個/平方メートル	即時		愛媛県
水稻	スクミリンゴガイ	移植後2週間以内	見取り調査	成貝数(貝高2.5cm以上)1.5個/1平方メートル以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	コバネイナゴ	6月下旬	ほ場内の任意の4地点において、畦際で捕虫網を各5回(計20回)振って調査する	すくい取り:100頭以上/20回	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	イナゴ類	7月上旬	20回振りすくい取り調査(畦畔際)	100頭以上	即時		栃木県
水稻	イナゴ類	7月上旬以後	20回振りすくい取り調査	100頭以上	随時		千葉県
水稻	コバネイナゴ(圃場単位)	7月上中旬	畦畔際の20回振りすくい取り虫数	100頭以上:防除必要	7月上中旬	指導参考	新潟県
水稻	コバネイナゴ	7月上旬～下旬	20回振りすくい取り調査	100頭以上	即時	茎葉散布剤	秋田県
水稻	イナゴ	7月上旬～下旬	20回振りすくい取り調査	100頭以上	即時		山形県
水稻	イナゴ類	穂ばらみ期～出穂期	捕虫網による20回すくい取り調査	100頭以上	即時		愛媛県
水稻	イナゴ類	穂ばらみ期～出穂期	すくい取り(20回振)	100頭以上	随時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	イネアザミウマ(黒点米)	早生出穂7日前頃	成虫すくい取り調査(20回往復)、水田畦畔沿い	100頭/20回往復すくい取り	即時		福井県
水稻	ツマグロヨコバイ	7月～9月	見取り調査	30頭/株	即時		山梨県
水稻	ツマグロヨコバイ	7月上～中旬	捕虫網によるすくい取り調査(20回振り)	(減収率5%を被害許容水準とした場合)すくい取り(20回振り)虫数50頭	7月上旬～8月中旬	虫数は成虫と老齢幼虫の合計値とする。	宮城県
水稻	ツマグロヨコバイ(第1世代成虫)(地域単位)	7月中下旬	20回振りすくい取り虫数	5頭以上:防除必要	8月上旬頃	指導参考	新潟県
水稻	ツマグロヨコバイ	7月下旬2世代幼虫盛期	すくい取り調査	20回振り400～500頭	即時		石川県
水稻	ツマグロヨコバイ	7月下旬(第2世代幼虫～第3回幼虫)	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	40頭	7月下旬～8月上旬		富山県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	ツマグロヨコバイ(第2世代)(地域単位)	7月下旬～8月上旬	20回振りすくい取り虫数	100頭以上:防除必要(発生量により散布回数を変更)	8月中旬頃	指導参考	新潟県
水稻	ツマグロヨコバイ	出穂直前～出穂始め(8月上旬)	見取り調査	成虫が株当たり20頭以上	即時		栃木県
水稻	ツマグロヨコバイ	8月上旬	ほ場内の任意の4地点において、畦から10列目の株を各5株(計20株)調査する	見取り:20頭以上/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	ツマグロヨコバイ	8月上旬	ほ場で捕虫網を10回振って調査する	すくい取り:100頭以上/10回	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	ツマグロヨコバイ	8月上旬(第2世代幼虫～第3回成虫)	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	200頭	8月上旬		富山県
水稻	ツマグロヨコバイ	8月4～5半旬(第3回成虫～第3世代幼虫)	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	200頭	8月下旬		富山県
水稻	ツマグロヨコバイ	8月下旬頃	20回振りすくい取り調査、成・幼虫の個体数を調べる	800頭	即時		群馬県
水稻	ツマグロヨコバイ	出穂前後(8月下旬～9月上旬)	払い落とし	50頭/株	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	ツマグロヨコバイ	出穂前後(8月下旬～9月上旬)	すくい取り(10回振)	500頭	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	黄萎病	10月	見取り調査。任意の500株について株ごと発病の有無を調査	再生株での発病株率が5%以上である地域	随時		千葉県
水稻	黄萎病	前年の刈取後(再生稲)	ほ場当たり任意の300株を見取り調査	再生稲の発病株率が5%以上	翌年の移植時		栃木県
水稻	ツマグロヨコバイ	田植後～9月上旬	払い落とし調査、1ほ場あたり25株	5頭/株以上	即時	・越冬場所となるほ場周辺の雑草を取り除く。	大阪府
稲	ツマグロヨコバイ	早生品種の穂ばらみ期～出穂期	1圃場あたり任意の1ヶ所について、捕虫網20回すくい取り調査	捕虫網20回すくい取り調査で、2,500～3,000頭の成虫の発生が見られる場合	即時		岡山県
稲	ツマグロヨコバイ	早生品種の穂ばらみ期～出穂期	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所について、株あたり発生個体数を見取り調査	株あたり20頭の成虫(成幼虫合計で40頭)の寄生が見られる場合	即時		岡山県
水稻	ツマグロヨコバイ	穂ばらみ期～出穂期(早生種)	見取り・払い落とし虫数:調査ほ場内よりランダムに選んだ25株の虫数を調査する。株を3回叩き、A4版の黒色板上に払い落とした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	40頭以上/株	即時		広島県
水稻	ツマグロヨコバイ	出穂期	見取り調査、任意	16頭/株	即時		福島県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
稲	ツマグロヨコバイ	出穂期前後	見取り調査	成幼虫数30頭/株	即時		埼玉県
水稻	ツマグロヨコバイ	出穂期	捕虫網によるすくい取り調査(20回振り)	(減収率5%を被害許容水準とした場合)すくい取り(20回振り)虫数1500頭	7月上旬~8月中旬	虫数は成虫と老齢幼虫の合計値とする。	宮城県
水稻	ツマグロヨコバイ	出穂期	1株おきの10株払い落とし調査	成虫密度 30頭/株	出穂期		愛媛県
水稻	ツマグロヨコバイ	乳熟期	見取り調査、任意	24頭/株	即時		福島県
水稻	黄萎病	稲刈り後	ほ場内の任意の2地点において、各200株(計400株)調査する	刈株再生芽発病株率:5%以上	翌年移植時	(防除要否の目安)	滋賀県
普通期水稻	セジロウカ	6月下旬~7月上旬(本田初期)	見取り(払い落とし)調査	飛来盛期~3日後 成虫15頭/株以上	即時		鹿児島県
水稻	セジロウカ	6月末~7月中旬	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	4頭/株(飛来成虫数)	即時		福井県
水稻	セジロウカ	7月前半	払い落とし	10頭/株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	セジロウカ	普通期栽培で7月上旬	1株おきの10株払い落とし調査	飛来成虫密度 10頭/株	7月上旬		愛媛県
水稻	セジロウカ(圃場単位)	7月上旬	20回振りすくい取り虫数	50頭以上:7月中下旬(幼虫増加期)に防除必要・50頭以下:その後の発生動向に注意	幼虫発生期	指導参考	新潟県
水稻	セジロウカ	7月上・中旬頃	見取り調査。任意の25株について株ごとに成幼虫を調査し、寄生数を求める	1株あたり10頭以上の寄生	随時		千葉県
水稻	セジロウカ	7月上旬~下旬(成虫飛来期)	払い落とし、1圃場あたり25株調査	成虫 5頭/株	飛来盛期の2週間後		島根県
水稻	セジロウカ	7月上旬~8月上旬	見取り調査、1圃場あたり25株	10頭/株	即時		奈良県
水稻	セジロウカ	7月中・下旬(侵入世代)	すくい取り調査	20回振り50頭	即時		石川県
水稻	セジロウカ(圃場単位)	7月中下旬	20回振りすくい取り虫数	300頭以上:防除必要・50頭以下:防除不要・中間量:成虫比率などを調査し、病虫害防除所などの指導を受けて要否を判断	幼虫発生期	指導参考	新潟県
水稻	セジロウカ	7月下旬	ほ場で捕虫網を10回振って調査する	すくい取り:50頭以上/10回	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	セジロウカ	7月下旬	ほ場内の任意の4地点において、畦から10列目の株を各5株(計20株)調査する	払い落とし:10頭以上/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	セジロウカ	7月下旬	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	80頭	7月下旬		富山県

# 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
稲	セジロウンカ	7月下旬～8月	見取り調査	成幼虫数10頭/株	即時		埼玉県
水稻	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬	払い落とし法 2株ずつ2～3ヶ所で調査	幼虫10頭/株以上	即時		山形県
水稻	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬(第1世代)	すくい取り調査	20回振り500～600頭	即時		石川県
水稻	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬(幼虫加害盛期)	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	30～40頭/株(幼虫数)	即時		福井県
水稻	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬	見取り調査	成幼虫数10頭/株以上	即時		京都府
水稻	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	10頭/株以上	即時		鳥取県
稲	セジロウンカ	7月下旬～8月中旬	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所について、株あたり発生個体数を見取り調査	株あたり10頭以上の発生が見られる場合	即時		岡山県
水稻	セジロウンカ	8月上旬	見取り調査、1圃場あたり25株について株上の成・幼虫個体数を計数	30頭/株	即時		群馬県
水稻	セジロウンカ(圃場単位)	8月上旬	20回振りすくい取り虫数	1000頭以上で幼虫比率が高い:病害虫防除所の指導を受けて要否を判断・1000頭以上で幼虫比率が低い:直ちに防除する必要ない。その後の発生動向に注意	幼虫発生期	指導参考	新潟県
水稻	セジロウンカ	田植後～8月	払い落とし調査、1ほ場あたり25株	10頭/株以上	即時	・防除適期は成虫飛来直後～次世代幼虫発生盛期(7月中旬～8月上旬)である。・大陸からの飛来害虫である。飛来情報に注意する。	大阪府
水稻	セジロウンカ	移植後1週間 成虫飛来期	見取り虫数:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の成虫数を調査する。確認した成虫数をカウントし、株あたり平均成虫数を計算する。	成虫 2頭以上/株	即時		広島県
水稻	セジロウンカ	本田初期	見取り調査、予察圃場50株、巡回調査20株/圃場	飛来虫の株あたり寄生虫数 5～10頭/株	即時		長崎県
水稻	セジロウンカ	本田初期	見取り調査	成虫数2～3頭/平方メートル	即時		大分県
水稻	セジロウンカ	本田初期	見取り調査	成幼虫数5頭/株	即時		大分県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	セジロウンカ	幼穂形成期～穂ばらみ期	見取り・払い落とし虫数:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の虫数を調査する。株を3回叩き、A4版の黒色板上に払い落としした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	10頭以上/株	即時		広島県
稲	セジロウンカ	穂ばらみ中期まで	払い落とし、見取り調査	50頭/株以上	即時又は次世代幼虫時		山口県
稲	セジロウンカ	飛来時	払い落とし、見取り調査	成虫数10頭/株以上	即時	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稻	セジロウンカ	飛来期	払い落とし調査、1ほ場当り5株×2ヶ所(10株)	飛来成虫数6頭/株	主要飛来期から約2週間目		福岡県
水稻	セジロウンカ	幼虫ふ化盛期(成虫侵入盛期の約3週間後)	粘着板法により10株相当を払い落とし、株当たり幼虫数を算出	全幼虫数35頭/株以上(中老齢幼虫15頭/株以上)	即時	茎葉散布剤	秋田県
早期水稻	トビイロウンカ	6月	予察灯	6月20日までのウンカ類の誘殺数1000頭/半旬以上	7月中旬		鹿児島県
普通期水稻	トビイロウンカ	6～7月中旬	予察灯	ウンカ類の誘殺数5,000頭/半旬以上	7月下旬～8月上旬		鹿児島県
稲	トビイロウンカ	飛来時(6月下旬～7月中旬)	払い落とし、見取り調査	10頭/100株以上	即時又は次世代幼虫時	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稻	トビイロウンカ	7月上旬～8月上旬	見取り調査	成幼虫数0.2頭/株	即時		大分県
水稻	トビイロウンカ	7月中・下旬(侵入世代)	見取り調査	株当たり0.2頭	即時		石川県
水稻	トビイロウンカ	7月中旬～8月上旬	払い落とし調査	20頭/100株	即時		熊本県
水稻	トビイロウンカ	7月下旬頃	見取り調査。任意の25株について株ごとに成幼虫を調査し、寄生数を求める	1株あたり5～10頭以上の寄生	緊急に一斉防除		千葉県
水稻	トビイロウンカ	7月下旬～8月上旬	見取り調査、任意の100株を調査	短翅虫数20頭/100株以上	即時		京都府
水稻	トビイロウンカ	7月下旬～8月上旬	払い落とし	20頭/100株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	トビイロウンカ	普通期栽培7月末～8月初め	1株おきの10株払い落とし調査	短翅型雌成虫数 20～30頭/100株	即時		愛媛県
稲	トビイロウンカ	7月下旬～8月上旬	払い落とし、見取り調査	20頭/100株以上	即時又は次世代幼虫時		山口県
普通期水稻	トビイロウンカ	7月下～8月上(本田中期)	払い落とし調査	短翅雌成虫20頭/100株以上	8月下旬		鹿児島県
普通期水稻	トビイロウンカ	7月下旬～8月上旬	払い落とし調査	10株あたり成虫及び幼虫数が2頭以上	幼虫ふ化揃い期等を考慮して防除		佐賀県

# 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	トビイロウンカ	8月上旬	見取り調査、1圃場の任意の場所2～3ヶ所で、各25株の虫数を調査	短翅型成虫0.25頭/株	即時		富山県
水稻	トビイロウンカ	8月初め	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	0.1頭/株(短翅成虫数)	即時		福井県
水稻	トビイロウンカ	8月上旬	払い落とし	短翅型雌成虫 30頭/100株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	トビイロウンカ	8月上旬	見取り調査、1圃場あたり25株	1頭/株	即時		奈良県
水稻	トビイロウンカ	早植栽培8月上旬から、普通植栽培8月下旬から	任意の25株について払い落とし調査(3ヶ所程度)	2～3頭/株	要防除水準以上の発生を確認したら直ちに防除		岐阜県
水稻	トビイロウンカ	8月上旬	見取り調査、予察圃場50株、巡回調査20株/圃場	短翅型雌成虫寄生密度 20頭/100株	幼虫ふ化揃い期		長崎県
水稻	トビイロウンカ	8月上旬～中旬(第1世代老齢幼虫から成虫期)	払い落とし、1圃場あたり25株調査	成幼虫1頭/株	第2世代若齢幼虫期の防除		島根県
水稻	トビイロウンカ	8月上旬～9月中旬	虫数、払い落とし(25株)	短翅雌成虫0.2頭/株	即時		宮崎県
水稻	トビイロウンカ	8月中旬	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	1頭/株(成幼虫数)	即時		福井県
水稻	トビイロウンカ	8月中旬	ほ場内の任意の4地点において、畦から10列目の株を各5株(計20株)調査する	払い落とし:1頭以上/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	トビイロウンカ	8月中旬	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	1頭/株以上	即時		鳥取県
水稻	トビイロウンカ(成・幼虫)	8月中下旬	見取り調査	2～5頭/株	即時	「普通期栽培」	香川県
水稻	トビイロウンカ	8月中旬～8月下旬	払い落とし調査	100頭/100株	即時		熊本県
水稻	トビイロウンカ	8月中旬～下旬	見取り調査	成幼虫数1頭/株	即時		大分県
水稻	トビイロウンカ	8月中旬～9月上旬	見取り調査、任意の100株を調査	成幼虫数5頭/株以上	即時		京都府
水稻	トビイロウンカ	8月中旬～9月上旬	見取り調査	成幼虫数5頭/株以上	即時		京都府
稲	トビイロウンカ	8月中旬～9月上旬	払い落とし、見取り調査	5頭/株以上	即時		山口県
水稻	トビイロウンカ	8月中旬・9月中旬	のぞき込み調査	短翅型成虫2～3頭/株	即時		神奈川県
水稻	トビイロウンカ	8月下旬	見取り調査、1圃場の任意の場所2～3ヶ所で、各25株の虫数を調査	(1)中生:成虫・幼虫 10頭/株 (2)晩生:成虫・幼虫 5頭/株	即時		富山県
水稻	トビイロウンカ	8月下旬(第2世代)	見取り調査	株当たり10頭	即時		石川県

# 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	トビイロウンカ	8月下旬	払い落とし	第2世代成・幼虫 5頭/株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
稲	トビイロウンカ	8月下旬～9月	見取り調査	成幼虫数10～15頭/株	即時		埼玉県
水稻	トビイロウンカ	8月下旬～9月上旬	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	10頭/株以上	即時		鳥取県
水稻	トビイロウンカ	普通期栽培8月下旬～9月上旬	1株おきの10株払い落とし調査	成虫数 30頭/10株	即時		愛媛県
水稻	トビイロウンカ	9月上旬	見取り調査、1圃場あたり25株	5頭/株	即時		奈良県
水稻	トビイロウンカ(成・幼虫)	9月上中旬	見取り調査	10頭/株	即時	「普通期栽培」	香川県
普通期水稻	トビイロウンカ	9月上～中旬	払い落とし調査	1株あたり老齢幼虫及び成虫が5頭以上	幼虫ふ化揃い期等を考慮して防除		佐賀県
水稻	トビイロウンカ	9月中旬	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	40頭/株(幼虫数)	即時		福井県
水稻	トビイロウンカ	9月末	払い落とし調査、1ほ場当たり5株×5ヶ所(25株)	中老齢幼虫合計1000頭/100株	即時		福岡県
水稻	トビイロウンカ	田植後～収穫期	払い落とし調査、1ほ場あたり25株	5頭/株以上	即時	・大陸からの飛来害虫である。飛来情報に注意する。	大阪府
水稻	トビイロウンカ	本田初期	払い落とし調査	10頭/100株	即時		熊本県
水稻	トビイロウンカ	出穂以降	見取り調査、予察圃場50株、巡回調査20株/圃場	雌成虫寄生密度 1頭/株	幼虫ふ化揃い期		長崎県
稲	トビイロウンカ	収穫1ヶ月以上前	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所について、株あたり発生個体数を見取り調査	10頭以上寄生している株が見られる場合	即時		岡山県
水稻	トビイロウンカ	収穫30日前	払い落とし調査	300頭/100株	即時		熊本県
水稻	トビイロウンカ	飛来後第1世代	払い落とし調査、1ほ場当たり5株×5ヶ所(25株)	中老齢幼虫合計20頭/100株	即時		福岡県
水稻	トビイロウンカ	飛来後第2世代	払い落とし調査、1ほ場当たり5株×5ヶ所(25株)	中老齢幼虫合計100頭/100株	即時		福岡県
水稻	トビイロウンカ	飛来後 第2世代幼虫期	見取り・払い落とし虫数: 調査ほ場内よりランダムに選んだ25株の虫数を調査する。株を3回叩き、A4版の黒色板上に払い落とした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	5頭以上/株	即時		広島県

# 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	ヒメトビウンカ	2月～3月	水田畦畔で越冬虫の成・幼虫の縞葉枯病ウイルスの保毒虫率を調べる	保毒虫率4%	移植時～8月上旬		群馬県
稲	ヒメトビウンカ	4月～5月	保毒虫率の検定	保毒虫率5%以上	移植時～7月下旬	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稻	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	5月～8月(6月～9月)	払い落とし調査、1ほ場あたり25株	3頭/株以上、保毒虫率5%	即時	・越冬場所となるほ場周辺の雑草を取り除く。 (栽培終了後)・縞葉枯病が多発するほ場では必ず箱施用剤を施す。	大阪府
水稻	縞葉枯病	5月下旬～6月下旬	ヒメトビウンカ第1世代成虫:1株おきの10株払い落とし調査(保毒虫率は100頭を虫体圧搾処理と簡易ELISA法による検定法で検定)	(1)保毒虫率2%で 0.25頭/株 (2)保毒虫率20%で 0.01～0.02頭/株	本田初期	ヒメトビウンカの6月上旬の発生に注意。	愛媛県
稲	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	6月中旬(第1世代成虫の密度最高時)	100株あたりの媒介虫数	1.9～0.64頭	幼虫防除:1回		静岡県
稲	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	6月中旬(第1世代成虫の密度最高時)	100株あたりの媒介虫数	8.74～2.0頭	成虫防除1回・幼虫防除:1回		静岡県
稲	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	6月中旬(第1世代成虫の密度最高時)	100株あたりの媒介虫数	10.0頭	成虫防除1～2回・幼虫防除:1回		静岡県
稲	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	6月中旬(第1世代成虫の密度最高時)	100株あたりの媒介虫数	15.8頭	成虫防除2～3回・幼虫防除:1回		静岡県
水稻	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	6月下旬	ほ場内の任意の2地点において、各200株(計400株)調査する	発病株率1%以上	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	ヒメトビウンカ(稲縞葉枯病)	7月2半旬	払い落とし	第1世代成虫 3頭/10株、第1世代成虫+第2世代幼虫 30頭/10株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	縞葉枯病	7月上旬～下旬	ヒメトビウンカ第2世代成虫:1株おきの10株払い落とし調査(保毒虫率は100頭を虫体圧搾処理と簡易ELISA法による検定法で検定)	保毒虫率20%で 3頭/株	生育期		愛媛県
水稻	縞葉枯病	前年の11月	越冬世代幼虫の保毒虫率を調査	保毒虫率が10%を超える	翌年の移植時		栃木県
水稻	縞葉枯病	前年の黄熟期	ほ場当たり任意の300株を見取り調査	発病株率が10%を超える	翌年の移植時		栃木県
水稻	ヒメトビウンカ(吸汁害)	出穂期以降	すくい取り(20回振り)	1800頭以上(成虫)、900頭以上(幼虫)	即時		北海道
水稻(コシヒカリ)(圃場単位)	アカヒゲホソミドリカスミカメ	出穂期～出穂期5日後	性フェロモントラップを水田内に設置、出穂期から5日間の誘殺数	誘殺数20頭以下:防除不要	出穂期5日後～10日後		新潟県



## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	アカヒゲホソミドリカスミカメ	乳熟期(第3回目以降の防除時期)	すくい取り(20回振り)	品種「ほしのゆめ」:1頭以上・品種「きらら397」、「ゆきひかり」:2頭以上・品種「きたくりん」:3頭以上	即時		北海道
水稻	アカヒゲホソミドリカスミカメ	乳熟期(第3回目以降の防除時期:出穂14日後)から黄熟期(8月下旬~9月上旬)まで、追加防除の判断を7日ごと(出穂14, 21, 28日後)に実施	フェロモントラップ(アース・バイオケミカル社製)、同一防除を実施する区域内(1~10ha)に3基、区域外周部から30m以上離して水田内の畦畔沿いに設置。数日毎に捕獲虫数を調査する。	前回判断以降7日間のトラップ1基あたり平均捕獲頭数:「ほしのゆめ」1.2頭、「きらら397」2.2頭	即時		北海道
水稻	アカスジカスミカメ	穂ばらみ期~出穂1週間後	1圃場あたり、捕虫網25往復50回振りすくい取り調査	6頭以上/50回すくい取り	即時		鳥取県
稲	斑点米カメムシ(クモヘリカメムシ)	出穂10日前~出穂10日後	フェロモントラップ(スリットトラップ)調査	出穂前10日間で3頭以上	穂揃期		山口県
稲	斑点米カメムシ(クモヘリカメムシ)	出穂10日前~出穂10日後	フェロモントラップ(スリットトラップ)調査	出穂後10日間で3頭以上	穂揃期1週間後		山口県
水稻	カメムシ類	出穂期~乳熟期	水田内畦畔際20回すくい取り	2~4頭	即時		福島県
水稻	斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ以外)	出穂後	1圃場あたり、捕虫網50回振りすくい取り調査	4頭以上/50回すくい取り	即時		鳥取県
水稻	斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ)	出穂15日後	20回振りすくい取り調査	幼虫が2頭以上	即時		栃木県
水稻	斑点米カメムシ類	出穂15日後	20回振りすくい取り調査	クモヘリカメムシ幼虫:早生18頭以上、晩生6頭以上、ホソハリカメムシ幼虫:早生14頭以上	随時		千葉県
水稻	斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ)	穂揃期以降	10回振りすくい取り調査	幼虫8頭以上(2等米:斑点米率0.3%)	即時		茨城県
水稻	斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ)	穂ぞろい期	20回振りすくい取り調査	成虫がいる	即時		栃木県

都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	斑点米カメムシ類	穂ぞろい期	本田すくい取り調査、捕虫網20回振り	4頭以上	即時	・出穂期予想日3週間前頃と出穂期頃の2回、または出穂2週間前にほ場周辺の畦畔や休耕田の雑草を刈り取る。・斑点米混入による品質低下を防止するために額縁刈りを行い、水田外周部のもみを別扱いすることが有効である。・畦畔のグランドカバープランツ(GCP)植栽は斑点米カメムシ類の発生抑制効果がある。・本田(3a以上)の3割の額縁防除と畦畔雑草防除を組み合わせることで効果が高い。	大阪府
稲	斑点米カメムシ(クモヘリカメムシ等大型種)	穂揃い期	すくい取り調査(40回)	1頭以上/20回すくい取り	即時		山口県
稲	斑点米カメムシ(アカスジカスミカメ等小型種)	穂揃い期	すくい取り調査(40回)	3頭以上/20回すくい取り	即時		山口県
水稻	斑点米カメムシ類	穂揃い期	20回振りすくい取り調査	クモヘリカメムシ成虫: 早生7頭以上、晩生2頭以上、ホソハリカメムシ成虫: 早生11頭以上	随時		千葉県
水稻	斑点米カメムシ類(アカヒメヘリカメムシ・クモヘリカメムシ)	穂揃い期	すくい取り(20回振)(タ方行う)	アカヒメヘリカメムシ2. 9頭、クモヘリカメムシ10~21頭	出穂始期と幼虫発生期(乳熟期~糊熟期)に2~3回		岐阜県
水稻	カメムシ類	穂揃い期~乳熟期	すくい取り調査	山間山麓の早期、早植水稻で20回振りすくい取り調査で5頭以上	穂揃い期と乳熟期に2回防除を実施	多発生の場合	佐賀県
水稻	斑点米を発生させるカメムシ類	穂揃い期~乳熟期	すくい取り調査	20回振りすくい取り調査で5頭以上	乳熟期に防除を実施	並発生の場合	佐賀県
水稻	斑点米カメムシ類	乳熟期	すくい取り(40回振)	3頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	斑点米カメムシ類	乳熟期	虫数、すくい取り	1頭/20回	即時		宮崎県
水稻	斑点米カメムシ類(カスミカメムシ類)	乳熟期	すくい取り: 捕虫網(柄の長さ1m、口径36cm)を用いて調査ほ場内を20回左右に振り、捕獲虫数をカメムシの種類別に調査する。	4頭以上/20回振りすくい取り(1等から2等への格下げ)	カスミカメムシ類主体の地域: 出穂期~その10日後に1~2回		広島県
水稻	斑点米カメムシ類(ホソハリカメムシ等加害種)	乳熟期	すくい取り: 捕虫網(柄の長さ1m、口径36cm)を用いて調査ほ場内を20回左右に振り、捕獲虫数をカメムシの種類別に調査する。	2頭以上/20回振りすくい取り(1等から2等への格下げ)	ホソハリカメムシ等その他加害種主体の地域: 出穂7日後~14日後に1~2回		広島県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	斑点米カメムシ類	乳熟期	捕虫網による20回すくい取り調査	すくい取り個体数 1頭	乳熟期～糊熟期		愛媛県
水稻	イネドロオイムシ	5月中旬頃(越冬成虫の本田侵入最盛期)	見取り調査。任意の25株について株ごと寄生成虫数を調査し、25株あたりの寄生成虫数を求める	成虫数が10株に2頭以上	随時		千葉県
水稻	イネドロオイムシ	5月中～下旬	見取り調査	越冬成虫10株あたり1頭、卵塊数株あたり1個または白麥葉が目立つとき	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	イネドロオイムシ	成虫侵入期(5月下旬に侵入開始)	ほ場当たり任意の100株を見取り調査	成虫が10頭を越える	即時		栃木県
水稻	イネドロオイムシ	5月下旬頃(産卵最盛期)	見取り調査。任意の25株について株ごと卵塊数を調査し、25株あたりの卵塊数を求める	卵塊数が1株に1卵塊以上	随時		千葉県
水稻	イネドロオイムシ	5月下旬(越冬後成虫本田侵入最盛期)	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の卵塊を調査	0.5頭/10株	6月上～中旬		富山県
水稻	イネドロオイムシ	越冬成虫発生盛期(5月末～6月上旬)	払い落とし調査、1ほ場あたり25株	成虫5頭/25株以上	即時		大阪府
水稻	イネドロオイムシ	産卵盛期(平年で6月第2半旬)	見取り調査	卵塊数1～2個/株以上	即時		山形県
水稻	イネドロオイムシ	産卵盛期(6月上旬)	ほ場当たり任意の30株を見取り調査	卵塊数が25個を越える	即時		栃木県
水稻	イネドロオイムシ	6月上旬(産卵最盛期)	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の卵塊を調査	5卵塊/10株	6月上～中旬		富山県
水稻	イネドロオイムシ	6月初め	見取り調査	株当たり1卵塊	ふ化盛期(6月2半旬頃)	箱粒剤無施用の場合	石川県
水稻	イネドロオイムシ	産卵盛期(6月上～中旬)	5列×10株=50株を調査し、卵塊数を算出	0.5卵塊/株を超えた場合	6月中旬	茎葉散布剤	秋田県
水稻	イネドロオイムシ	6月中旬(幼虫発生盛期)	見取り調査、任意	3～4齢幼虫10頭以上/株	即時		福島県
水稻	イネドロオイムシ	6月中旬	見取り調査	被害葉率20%	即時		石川県
水稻	イネドロオイムシ	6月中旬(加害最盛期)	見取り調査	被害葉率20%以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	イネドロオイムシ	6月中旬～下旬	ほ場内の任意の2地点において、各50株(計100株)調査する	被害葉率20%以上	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	イネドロオイムシ	6月中旬～下旬	ほ場内の任意の2地点において、各50株(計100株)調査する	被害株率50%以上	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	イネドロオイムシ	7月	見取り調査、1圃場当たり任意の25株について卵塊の寄生数調査	12.5～20卵塊/25株	即時		山梨県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	イネドロオイムシ(圃場単位)	越冬世代成虫本田密度の最盛期	100株の成虫寄生数	100株あたり10頭以下:防除不要・100株あたり30頭以上:防除必要	茎葉散布剤:幼虫加害初期・水面施用剤:成虫密度盛期		新潟県
水稻	イネドロオイムシ	成虫発生盛期	畦畔際から圃場を観察する(100株を見取り調査)	(減収率0%を被害許容水準とした場合)成虫密度:100株当たり25頭程度	粒剤:越冬後成虫侵入最盛期・粉剤:幼虫発生始期		宮城県
水稻	イネドロオイムシ	産卵最盛期	見取り調査	2.0卵塊以上/株	即時		北海道
水稻	イネドロオイムシ	産卵盛期	畦畔際から5~6歩入り、そこから中央に向かって25株見取り調査する	卵塊数13個/25株	即時		岩手県
水稻	イネドロオイムシ	産卵盛期	畦畔際から5~6歩入り、そこから中央に向かって25株見取り調査する	卵塊数3個/25株	翌年		岩手県
水稻	イネドロオイムシ	卵塊発生盛期	畦畔際から圃場を観察する(100株を見取り調査)	(減収率0%を被害許容水準とした場合)卵塊密度:100株当たり80個程度	粒剤:越冬後成虫侵入最盛期・粉剤:幼虫発生始期		宮城県
水稻	イネドロオイムシ(圃場単位)	卵塊密度の最盛期	30株の卵塊数	30株あたり25卵塊以下:防除不要・30株あたり90卵塊以上:防除必要	茎葉散布剤:幼虫加害初期・水面施用剤:成虫密度盛期		新潟県
水稻	イネゾウムシ	—	見取り調査	被害株率90%以上	即時		北海道
水稻	イネゾウムシ	移植10日後	見取り調査	畦畔沿いの成虫数株当たり0.3頭	即時	箱粒剤無施用の場合	石川県
水稻	イネゾウムシ	移植10日後頃	見取り調査。任意の25株について株ごと寄生成虫数を調査し、25株あたりの寄生成虫数を求める	1株あたり0.2~0.5頭以上	随時		千葉県
水稻	イネミズゾウムシ	—	見取り調査	10株あたり成虫数が5頭以上	成虫侵入ピーク時		佐賀県
水稻	イネミズゾウムシ	本田発生盛期	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の虫数を調査	0.3頭/株	本田発生盛期		富山県
稲	イネミズゾウムシ	5月	見取り調査、1圃場あたり25株調査	0.5頭/株	即時		三重県
水稻	イネミズゾウムシ	5月~6月	見取り調査、1圃場あたり任意の50株について株ごとの寄生虫調査	1頭/2株	即時		山梨県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	イネミズゾウムシ	本田の成虫発生盛期(5月～6月)	払い落とし調査、1ほ場あたり25株	成虫5頭/25株以上	即時	・田植え後の気温が低い場合には調査時期を遅くする。・本田の全面施用量の1/3を額縁防除することも効果が高い。・毎年の発生が多いほ場では稚苗よりも大きな中苗、成苗を移植する。・ほ場周辺に耕作放棄地がある場合には、越冬成虫の発生に注意する。	大阪府
水稻	イネミズゾウムシ	5月、6月	見取り調査、1圃場あたり25株	0.5頭/株	即時		奈良県
稲	イネミズゾウムシ	5月上旬までの移植	見取り調査	成虫数1頭/株	即時		埼玉県
水稻	イネミズゾウムシ	5月中旬	見取り調査	畦畔沿いの成虫数株当たり0.3頭	即時	箱粒剤無施用の場合	石川県
稲	イネミズゾウムシ	5月中旬の移植	見取り調査	成虫数0.5頭/株	即時		埼玉県
水稻	イネミズゾウムシ	移植2週間後(5月中～下旬)	畦畔沿いの任意の50株を見取り調査	成虫が25頭以上	即時		栃木県
水稻	イネミズゾウムシ	5月20～25日(本田侵入期)	成虫見取り調査、水田畦畔から1m内部に入った場所100株	(1)80頭/100株(育苗箱粒剤施用済)(2)30頭/100株(育苗箱粒剤未施用)(3)20頭/100株(箱粒剤未施用<漏水田>)	即時		福井県
水稻	イネミズゾウムシ	5月中旬～下旬(越冬成虫飛来盛期)	見取り調査、任意の25株について寄生成虫数を調査	成虫0.3頭/株、被害葉率20%	要防除水準以上の発生を確認したら直ちに防除		岐阜県
水稻	イネミズゾウムシ	5月中旬～6月下旬	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	0.5頭/株以上	即時		鳥取県
水稻	イネミズゾウムシ	5月5～6半月	払い落とし調査、1ほ場当たり5株×2ヶ所(10株)	成虫密度0.5頭/株	即時		福岡県
水稻	イネミズゾウムシ	5月下旬	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株(計100株)調査する	見取り:0.5頭以上/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	イネミズゾウムシ	5月下旬	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株(計100株)調査する	被害株率90%以上	即時	(防除要否の目安)	滋賀県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
稲	イネミズゾウムシ	5月下旬	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所(畦畔から3条目)について、株あたり発生個体数を見取り調査	(1)育苗箱施薬を行っていない圃場で越冬成虫の寄生数が株あたり0.3頭以上の場合(2)育苗箱施薬圃場で田植え後の飛来数が多く、成虫の食害によって稲の初期生育が抑制されることが考えられる場合	即時		岡山県
水稻	イネミズゾウムシ	5月第6半旬	圃場あたり2ヶ所について50株以上を調査する	成虫による食害株率62%又は被害度18	5月第6半旬		青森県
水稻	イネミズゾウムシ	5月下旬～6月上旬	水田中央部までの50株を見取り調査	25頭/50株(稚苗移植)以上・35頭/50株(中苗移植)以上	即時		山形県
水稻	イネミズゾウムシ	5月下旬～6月上旬	1圃場当たり100株程度の見取り調査を行う	株当たりの越冬成虫数が1頭以上	即時		長野県
水稻	イネミズゾウムシ	5月下旬～6月上旬(成虫飛来期)	見取り調査	育苗箱施用剤を使用しなかった場合、成虫が株当たり0.3頭を超えるとき。育苗箱施用を行った場合、成虫が1頭/株以上で食害が激しいとき。	即時		京都府
水稻	イネミズゾウムシ	5月下旬～6月上旬	見取り調査	越冬成虫の本田密度株あたり0.3頭または成虫の食害株率90%以上	即時	箱施用をしていない場合(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	イネミズゾウムシ	6月第1～2半旬	圃場あたり2ヶ所について50株以上を調査する	成虫による食害株率82%又は被害度25	6月第1～2半旬		青森県
水稻	イネミズゾウムシ	6月10日～15日(越冬成虫の発生最盛期、4月1日からの積算温度<13.8℃)以上で70日度～100日度)	見取り調査(50株)	成虫食害株率70%以上	即時		北海道
水稻	イネミズゾウムシ	6月10日～15日(越冬成虫の発生最盛期、4月1日からの積算温度<13.8℃)以上で70日度～100日度)	見取り調査(120株)	0.5頭/株以上	即時		北海道
水稻	イネミズゾウムシ	6月上旬	5列×10株=50株を調査し、成虫数、食害株率を算出	越冬後成虫0.3頭/株以上(食害株率90%以上)	6月上旬	水面施用剤	秋田県
水稻	イネミズゾウムシ	前年5月20～25日(本田侵入期)	成虫見取り調査、水田畦畔から1m内部に入った場所100株	前年50頭/100株	育苗箱施薬の実施		福井県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	イネミズゾウムシ(地域単位)	前年6月第3半旬	1地域(数十ha)30~40ほ場程度、畦畔から3・4条目の50株の被害株率	平均被害株率30%以下:防除不要	各薬剤の処理適期		新潟県
水稻	イネミズゾウムシ	前年6月上旬	5列×10株=50株を調査し、成虫数、食害株率を算出	越冬後成虫0.3頭/株以上(食害株率90%以上)	5月中~下旬	箱施用剤、移植時施用剤	秋田県
水稻	イネミズゾウムシ	移植直後から成虫が侵入する場合	見取り調査、任意	0.22頭/株	即時		福島県
水稻	イネミズゾウムシ	移植10日から成虫が多くなるほ場の場合	見取り調査、任意	0.37頭/株	即時		福島県
水稻	イネミズゾウムシ	移植後	見取り調査	成虫0.8頭/株	即時		茨城県
稲	イネミズゾウムシ	全作期移植10日後	見取り調査	成虫数0.3頭/株	即時		埼玉県
水稻	イネミズゾウムシ	移植後	株あたり成虫数	0.5頭/株(5%減収)	即時(水面施薬)		愛知県
水稻	イネミズゾウムシ	越冬後成虫発生初期(移植直後)	見取り虫数:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の成虫数を調査する。確認した成虫数をカウントし、株あたり平均成虫数を計算する。	1頭以上/株	即時(成虫防除)		広島県
水稻	イネミズゾウムシ	本田初期	見取り調査	成幼虫数0.5頭/株	即時		大分県
水稻	イネミズゾウムシ	移植10日後頃	見取り調査。任意の25株について株ごと寄生成虫数を調査し、25株あたりの寄生成虫数を求める	飛来成虫数が2~3株に1頭以上	随時		千葉県
水稻	イネミズゾウムシ(圃場単位)	移植後2週間頃(移植後低温の場合は調査を遅らせる)	畦畔から1mの位置で100株の食害指数(食害度)、または50株の成虫数	食害指数の平均値2以下(被害葉率11~20%以下):防除不要・食害指数の平均値3以上(被害葉率21~30%以上):防除必要・50株あたり成虫15頭以上:防除必要・追加防除のめやす:防除実施圃場で侵入盛期後も50株当たり50頭以上	各薬剤の処理適期		新潟県
稲	イネミズゾウムシ	本田初期	株あたり成虫数 畦畔から中央部へ連続50株2か所の計100株を調査	0.5頭/株以上	田植え後10~15日目	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稻	イネミズゾウムシ	本田初期	見取り調査、予察圃場50株、巡回調査25株/圃場	株あたり寄生越冬成虫密度 0.5頭/株	移植1~2週間後		長崎県
水稻	イネミズゾウムシ	越冬後成虫飛込盛期	見取り虫数:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の成虫数を調査する。確認した成虫数をカウントし、株あたり平均成虫数を計算する。	(1)育苗箱施用田:1頭以上/株 (2)その他水田:0.3頭以上/株	即時(成虫防除)		広島県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	イネミズゾウムシ	越冬成虫飛込み期	虫数、見取り(25株)	0.5頭/株	即時		宮崎県
水稻	イネミズゾウムシ	成虫本田侵入盛期	畦畔際から5~6歩入り、そこから中央に向かって25株見取り調査する	8頭/25株	即時		岩手県
水稻	イネミズゾウムシ	成虫侵入盛期	畦畔際から2m程度のところを観察する。	(減収率5%を被害許容水準とした場合)株あたり成虫密度:5月第2半旬移植5.7頭/株、5月第4半旬移植1.4頭/株、5月第6半旬移植0.7頭/株	即時	他の減収率(0%, 1%, 3%)を被害許容水準として要防除水準を設定することもできる。	宮城県
水稻	イネミズゾウムシ	成虫本田侵入盛期	畦畔際から5~6歩入り、そこから中央に向かって25株見取り調査。	3頭/25株	翌年		岩手県
水稻	イネミズゾウムシ	成虫侵入盛期の5日後	畦畔際から2m程度のところを観察する。	(減収率5%を被害許容水準とした場合)被害葉率:5月第2半旬移植56%、5月第4半旬移植35%、5月第6半旬移植18%	即時	他の減収率(0%, 1%, 3%)を被害許容水準として要防除水準を設定することもできる。	宮城県
水稻	ニカメイガ	5月上旬~発ガ最盛日	ほ場の隅にフェロモントラップを設置し、累計誘殺数を調査する	累計誘殺数200頭以上	6月中旬	(防除要否の目安)	滋賀県
稲	ニカメイガ	6~9月	粘着トラップを水田畦畔・高さ50cmに設置し、誘殺数を7日ごとに調査	ピーク日までの誘殺数(1)越冬世代:56頭以上(2)第1世代:144頭以上	即時		岡山県
水稻	ニカメイチュウ(地域単位)	6月第2半旬以降	性フェロモントラップを1地域10個程度設置、誘殺数	6月第2半旬までの誘殺数の平均値800頭以下:防除不要	第1世代		新潟県
水稻	ニカメイガ	6月中旬	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株(計100株)調査する	被害株率10%以上	7月下旬~8月上中旬	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	ニカメイチュウ(地域単位)	6月20日頃	1地域40地点程度、1圃場25株の葉鞘変色茎発生株率	葉鞘変色茎発生株率20%以下:防除不要	第1世代		新潟県
水稻	ニカメイチュウ(圃場単位)	6月20日頃	1圃場25株、葉鞘変色茎率	葉鞘変色茎発生株率50%以下:防除不要	第1世代		新潟県
水稻	ニカメイガ	6月中旬~下旬(第1世代幼虫ふ化最盛期)	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	葉鞘変色茎率5%以上	即時		鳥取県
水稻	ニカメイチュウ	6月末(第1世代)	見取り調査	葉鞘変色茎率5%以上	—		京都府
水稻	ニカメイガ	第1世代幼虫加害初期(6月下~7月初)	見取り調査、1圃場あたり25株について総茎数と葉鞘変色茎数を計数	葉鞘変色茎率5%	即時		群馬県



# 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	ニカメイチュウ	6月下旬～10月上旬	見取り調査、1ほ場あたり25株	被害株率5%以上	発蛾最盛期からその7日後	・定植時の箱施用剤により第1次世代の発生密度を下げる事ができる。	大阪府
水稻(キヌヒカリ普通期)	ニカメイガ	7月中旬(1化期)	被害茎率を見取り調査する	1化期6.2%	即時	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
水稻	ニカメイガ	7月下旬～8月上旬(第1世代幼虫末期)	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	被害株数10%以上または心枯茎率1%以上	8月中旬～下旬(第2世代幼虫の発生最盛期)に防除		鳥取県
水稻(キヌヒカリ普通期)	ニカメイガ	8月中旬(2化期)	被害茎率を見取り調査する	2化期3.4%	即時	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
水稻	ニカメイチュウ(地域単位)	前年10月下旬～11月	1地域40圃場程度、1圃場40株の被害茎発生株率	被害茎発生株率60%以下:防除不要	第1世代		新潟県
水稻	ニカメイガ	出穂期10日前	50株5ヶ所の平均被害株率を算出する	被害株率4%	出穂10日前		青森県
水稻	ニカメイガ(第1世代)	5月～6月	フェロモントラップによる越冬世代誘殺数	越冬世代成虫総誘殺数が500頭以上	即時		長野県
水稻	ニカメイチュウ(第一世代幼虫)	5月～6月	フェロモントラップにより誘殺数を調査	6月10日(県北は5月末)までの総誘殺数が400頭以上	越冬世代成虫の発蛾最盛日から7～14日後		栃木県
水稻	ニカメイチュウ(1世代)	発蛾最盛日の約1週間後(平年では6月7～10日)	見取り調査	被害株率10%	発蛾最盛期の15～20日後(6月中旬頃)		石川県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	6月中旬頃	見取り調査。任意の25株について株ごと被害茎数を調査し被害株率を求める	葉鞘変色茎率が5%以上	随時		千葉県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	6月中～下旬	2列×25株＝50株又は4列×25株＝100株を調査し、葉鞘変色茎率を算出	葉鞘変色茎率が12%を超えた場合	即時	茎葉散布剤、水面施用剤	秋田県
稲	ニカメイチュウ(第1世代)	6月下旬～7月上旬	見取り調査	葉鞘変色茎率5%	即時		埼玉県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	前年10月(前年稲刈後)	刈り株調査、1圃場の任意の100株について幼虫数を調査	刈株の越冬幼虫数 1000頭/10a	育苗時、本田		富山県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	前年第2世代末	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の虫数を調査	被害茎率2%	育苗時、本田		富山県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	前年第2回成虫発生期	予察灯調査、発生時期の総虫数を調査	50頭	育苗時、本田		富山県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	心枯茎の出る前(田植後25～40日)	葉鞘変色茎率を見取り調査	葉鞘変色茎1本/株以下ならば防除不要	即時		山形県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	第一世代被害発生時期	見取り調査	葉鞘変色株率10%以上	6月下旬(発蛾最盛期の10～15日後)	(要防除密度の目安)	兵庫県

# 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	第1回成虫	予察灯調査、発生時期の総虫数を調査	100頭	第1世代発蛾最盛期より15~20日後		富山県
稲	ニカメイチュウ(第2世代)	5月1日~6月30日(越冬世代成虫)	フェロモントラップ法	越冬世代成虫のフェロモントラップ総誘殺数400~500頭/トラップ	8月下旬		埼玉県
水稻	ニカメイチュウ(第2世代幼虫)	6月下旬	ほ場当たり任意の25株を見取り調査	葉鞘変色茎の株率が20%以上	第一世代成虫の発蛾最盛日から5日後まで		栃木県
稲	ニカメイチュウ(第2世代)	6月下旬~7月上旬	見取り調査	第1世代の芯枯茎率1.0~1.5%、同株率10%	8月下旬		埼玉県
水稻	ニカメイチュウ(第2世代)	7月中旬~下旬(第1世代末)	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の虫数を調査	被害茎率1%	第2世代発蛾最盛期より5~7日後		富山県
水稻	ニカメイチュウ(第2世代)	7月下旬(第1世代被害末期)	周辺1ha内の5筆の水田で2列×100~150株×3カ所の合計700株を調査し、心枯株率を算出	心枯株率3%以上	8月上~中旬	茎葉散布剤、水面施用剤	秋田県
水稻	ニカメイチュウ(第2世代)	第2回成虫発生期	予察灯調査、発生時期の総虫数を調査	50頭	第2世代発蛾最盛期より5~7日後		富山県
水稻	ニカメイチュウ(第2世代)	第二世代被害発生時期	見取り調査	第一世代の被害が多かった場合	8月下旬(発蛾最盛日の7日後)	(要防除密度の目安)	兵庫県
稲	コブノメイガ	多飛来時(6月下旬~7月中旬)	見取り調査	次世代幼虫による被害葉やつづり葉の葉率(上位2葉)が20%以上	即時		山口県
水稻	コブノメイガ	7月中旬~下旬	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	1頭	7月下旬~8月上旬		富山県
水稻	コブノメイガ	7月中・下旬(侵入世代)	すくい取り調査	50回振り2頭	ふ化期(8月上旬頃)		石川県
水稻(キヌヒカリ普通期)	コブノメイガ	7月下旬まで	上位2葉の被害葉率を見取り調査する	18%	即時(第1世代幼虫期)	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
水稻	コブノメイガ(幼虫)	7月末~8月上旬	見取り調査	被害株率20%程度	即時	「普通期栽培」	香川県
水稻	コブノメイガ	7月下旬~10月上旬	見取り調査、1ほ場あたり25株	上位2葉被害葉率5%以上	8月下旬~9月中旬(8月に巻葉が多い場合)	・国内では越冬できない。 ・飛来情報に注意する。	大阪府
水稻	コブノメイガ	8月上旬	見取り調査	上位2葉の食害葉率20%以上	8月中・下旬	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻 中生、晩生品種	コブノメイガ	8月上旬	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株(計100株)調査する	被害株率20%以上	8月末~9月上旬	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	コブノメイガ	8月上旬	見取り調査	白変葉が株率で10%	次世代発蛾最盛期の1週間後		大分県
水稻	コブノメイガ	8月上旬~中旬	被害株率:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の被害葉の有無を調査する。被害葉は新しい食害痕とする。	県南部地帯:被害株率20%以上	被害初期(発蛾最盛期~7日後)		広島県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	コブノメイガ	8月上旬～中旬	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	2頭	中・晩生対象 8月中旬		富山県
水稻 中生、晩生品種	コブノメイガ	8月中旬	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株(計100株)調査する	被害葉率(上位2葉)20%以上	8月末～9月上旬	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	コブノメイガ	出穂期	見取り調査、1圃場の任意の25株の上位2葉について被害葉を調査	上位2葉の食害葉率10%	穂揃い期		富山県
稲	コブノメイガ	成虫最盛期	払い出し	5頭/平方メートル以上	粒剤は即時、粉剤は1週間後		山口県
水稻	コブノメイガ	第1世代幼虫期	見取り調査	被害株率20%以上または被害葉率0.2%以上	第2世代幼虫期		熊本県
水稻(直播)	イチモンジセセリ(イネツトムシ)	7月下旬(若齢幼虫期)	見取り調査、1平方メートルの株を圃場あたり5ヶ所程度	若齢幼虫数:4.4頭/平方メートル	即時		福井県
水稻	イネツトムシ	7月下旬～8月上旬	1圃場当たり100株程度の見取り調査を行う	株当たりの幼虫数が3頭以上	即時		長野県
水稻	イネツトムシ	7月6半旬～8月1半旬	見取り調査	ツガ株あたり0.5個以上	7月下旬～8月初旬	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	イネツトムシ	7月下旬～8月初め	見取り調査 100株	第2世代の1齢幼虫 3頭/株	若齢幼虫期		愛媛県
水稻	イネツトムシ	8月上旬	見取り調査	ツガ株あたり0.5個	即時		群馬県
稲	イネツトムシ	幼虫若齢期(ふ化最盛期4～7日後)	見取り調査	幼虫数5頭/10株	即時	6/1以降の気温が平年並みの場合、孵化最盛期は7/30	埼玉県
水稻	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	6月～8月	払い落とし調査、1ほ場あたり25株	1頭/株以上	即時	・移植時の箱施用剤により初期の発生密度を下げることができる。 ・特に発生が多い場合には箱施用を検討する。	大阪府
水稻	フタオビコヤガ(第2世代)	6月下旬～7月上旬	平均的に発生しているほ場の25～50株の上位3葉を見とり調査し、被害株率と食害度を算出	被害株率が100%で食害度が25を超えた場合	即時	茎葉散布剤	秋田県
水稻	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	7月2～3半旬(幼穂形成期)	見取り調査	被害株率50%	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	フタオビコヤガ(第3世代)	7月下旬～8月上旬	平均的に発生しているほ場の25～50株の上位2葉を見とり調査し、被害株率と食害度を算出	被害株率が100%で食害度が25を超えた場合	即時	茎葉散布剤	秋田県

## 都道府県が設定している要防除水準(水稻害虫)

(平成29年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	フタオビコヤガ	幼虫発生期	第1回目(6月下旬)・第2回目(7月下旬)・第3回目(8月下旬)	第1回目(幼虫数2.7頭以上/株)・第2回目(幼虫数8.7頭以上/株)・第3回目(幼虫数26.0頭以上/株)	即時		北海道
水稻	フタオビコヤガ	中齢幼虫主体の時期(第1世代:6月上旬、第2世代:7月上旬、第3世代:8月上旬)	平均的に発生している場所の25~50株の食害度を調査(第1世代:株全体、第2世代:上位3葉、第3世代:上位2葉を調査)【食害度= $(4A+3B+2C+D)/(4 \times \text{調査株数}) \times 100$ 】	被害株率100%で食害度25以上(第1世代は食害度75以上)	即時	食害程度別食害葉面積率(A:51%以上、B:31~50%、C:16~30%、D:1~15%)	山形県